

NEWS LETTER

発行:水資源・環境学会

NEWS LETTER No.61

2013年1月7日

目次

2012年度 冬季研究会 案内	1
2013年度 研究大会 案内	3
2013年度 夏季現地研究会 第1報	4
2012年度 夏季現地研究会 報告	5
2012年度 総会の概要 2011年度 事業報告	8
事務局からのお知らせ	12

水資源・環境学会

◇ 2012年度「冬季研究会」の案内 ◇

湖沼環境保全一びわ湖を中心に

2012年度冬季研究会を下記の要領にて開催します。
皆さまのご参加をお待ちしています。

湖沼は国民の生活や生産活動にとって重要な資産である。生命を維持する上で不可欠な飲料水や農・工業用水等の水資源の供給、水産資源の育成、治水などさまざまな有用なサービスを提供している。一方で、湖沼には、豊かな景観の形成や生物多様性の確保、レクリエーションや教育の場としても機能している。

また、湖沼は水が滞留するという特性を持っているため、流入した汚濁物質が滞留しやすく、いったん汚濁すると回復するのに長期間を要する。これに加え、集水域での開発や人口の増加等の社会・経済的な構造の変化は湖沼環境への人為負荷に大きく影響を及ぼしている。

このように多様な湖沼に対するニーズを調整するにはどうすればよいのか。住民参加や住民の統治の議論は欠かせないと思われる。今回の研究大会では、持続可能な湖沼の環境保全を事例に、総合的な環境保全のあり方を住民参加・協働を軸に議論できればと考えている。

【日 時】2013年3月3日(日) 14時～17時

【場 所】大津市・環びわ湖大学地域コンソーシアム
〒520-0055 滋賀県大津市春日町1番5号
アルプラザ大津5階

Tel : 077-526-8850

Fax : 077-526-8851

Mail : info@kanbiwa.jp

【最寄駅】JR琵琶湖線・大津駅より徒歩2分
(JR大津駅隣のアルプラザ5階)

【参加申込・問合せ先】小幡 範雄 (立命館大学 政策科学部)
obatan@sps.ritsumeai.ac.jp



★★ 冬季研究会の概要 ★★

【開会挨拶と主旨説明】

14:00～14:05

小幡 範雄（立命館大学 政策科学部）

【研究報告】

14:05～14:50

報告1：湖沼環境保全：琵琶湖を中心にした行政の取り組み

小谷 博哉（(財)国際湖沼環境委員会 アドバイザー）

報告要旨：琵琶湖は人間生活との関わりの深さにおいて世界でも有数の歴史的な経緯を有している。したがって、様々な面で記録にとどめられてきたが、第二次世界大戦後急激な社会変化の波に曝されて、環境悪化が一気に進む様相を呈してきた。そうした中で、琵琶湖の環境に現れてきた現象を逐次追うと共に、行政的にどのように対応してきたのかを若干の本音ベースを混ぜながら概観してみたい。一連の経過の中で、公害問題への対処から生態系の保全に視点を当てた取り組みへの前進、更には既存の知識の範囲を超えた現象への危惧等についても議論できれば幸いである。

14:50～15:35

報告2：水資源・環境保全と市民：環境ガバナンス論からの接近

宮永 健太郎（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 主任研究員）

報告要旨：水資源・環境保全を1つの公共政策領域として考えた場合、市民という存在や市民参加のような試みの意味・意義は、どこに見いだされるべきか。そもそも、保全すべき水資源・環境の機能や価値は一体どのような性質であり、そしてそれが市民という存在や市民参加のような試みとどのように関連しているのか。本講演では、滋賀県外を中心とした各種実践にも目配りしつつ、“環境ガバナンス”という概念を手がかりに主に学術的な側面から接近を試みたい。

【コメント】

15:35～15:55

秋山 道雄（滋賀県立大学 環境科学部）

竺 文彦（龍谷大学 理工学部）

【総合討論】

16:05～16:55

コーディネーター：小幡 範雄

パネリスト：小谷 博哉

宮永 健太郎

秋山 道雄

竺 文彦

【閉会挨拶】

16:55～17:00

小幡 範雄

※研究会終了後、懇親会を予定しています。

☆☆☆☆ 2013年度 水資源・環境学会 ☆☆☆☆

研究大会のご案内と発表の募集

研究大会テーマ:「地域と水環境」

【開催日】 2013年6月22日(土)～23日(日)**【大会会場】 長野県飯田市内(予定)**

近代水道が登場して以来、水との人との距離はなくなると同時に、水への深い思いと憧憬はなくなり、その関係は疎遠になった。また、治水事業が明治28年制定の河川法制定以来、行政主導となり知育の水と地域住民・農民との距離が拡大した。灌漑事業・河川事業・上下水道事業等の個別的水事業が成熟期を迎えた日本において、水問題をホーリスティックに捉えた新たな水資源環境政策の登場が求められる。そこには、単なる技術的対応、経済的事業評価だけでなく、水資源環境事業を経済的・環境的・社会的に評価するとともに新たに持続可能性という新たな視点での考察が必要であろう。2013年度研究大会では、「地域と水環境」という、古くて新しいテーマに再挑戦し、再び水問題の原点を探りたい。会員各位の積極的なご参加をお願いします。

シンポジウムでは、「農業用水・環境用水のコーポレーション」(案)と題し、水管理の国際的潮流である「協力」をベースに、長野県飯田市で開催します。飯田市は日本の中央、長野県の最南端に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえ、南北に天竜川が貫く日本一の谷地形が広がり、豊かな自然と優れた景観、四季の変化に富み、動植物の南北限という気候風土に恵まれています。「りんご並木と人形劇のまち」としても知られる飯田市は、天下の名勝とうたわれた天龍峡をはじめ、天竜川の川下り、元善光寺、しらびそ高原などが観光名所として知られていますが、近年では体験教育旅行や、銘桜を巡る桜守の旅、グリーンツーリズム・エコツーリズムの取り組みなども全国から注目されています。また「環境モデル都市」に認定された飯田市は、おひさまとりのエネルギーを地産地消のグリーン電力として利用した先進的な取り組みを、市内や全国に向けて発信しています。この、飯田市において、水資源・環境問題の新しいイシューである「コーポレーション」について議論することは、極めて意義の高いものと考えられます。農業用水と環境用水との関係も新しい局面を拓きつつあります。水の「結び」について飯田で熱く語りましょう。

なお、大会では大会テーマに関連した発表並びに一般テーマでの発表を募集しています。下記要領に従い、応募締切日までにご応募ください。問合せは下記問合せ先までお願いします。

※詳細は学会ホームページおよび次号のニューズレターでお知らせします。

【大会スケジュールの概要】

6月22日：研究大会

午前(10:00～12:30) 一般発表

午後(13:30～14:00) 総会

(14:00～17:00) テーマシンポジウム

「農業用水・環境用水のコーポレーション」(案)

6月23日：エクスカージョン

(候補地) 天竜ライン下り

【発表応募締切】 2013年3月31日(日)必着**【研究発表区分】 ① 一般発表 ② 研究大会テーマ論題****【応募要領】** 一般発表、研究大会テーマ論題とも次の4項目を記入のうえ、電子メールで下記まで送付してください。

◎必須4項目: 「研究発表区分」 「タイトル」 「報告者名」 「400字程度の要旨」

【応募申込・問合せ先】 仲上 健一 (立命館大学 政策科学部) E-mail: nakagami@sps.ritsumei.ac.jp

水資源・環境学会

2013年度 夏季現地研究会 第1報

日 程：8月中旬以降の約1週間

費 用：約20万円

「シベリアの青い真珠」と謳われるバイカル湖(湖水面積は31,494 km² (琵琶湖のおよそ46倍))の視察旅行を行います。バイカル湖では数々の国際的研究や調査が行われ、1988年11月に当時のソ連科学アカデミーが「バイカル湖国際生態学研究センター」(BICER)を開設し、バイカル湖周辺を世界中の研究者に向けて門戸を開くとともに科学発展と環境および生態系保全への取り組みを始めています。これはロシア政府が引き継ぎ、日本やアメリカなど5カ国が参加した設立運営委員会の運営の下、バイカルアザラシの生態や予想外に進行していた環境汚染問題などに取り組がなくなっています。1997年にバイカル湖底の堆積土からメタンハイドレートが発見され資源的にも注目されています。

2013年度夏季現地研究会では、琵琶湖とバイカル湖の国際比較研究の視点をもちつつも、バイカル湖環状鉄道に乗り湖畔散策を楽しみたいと思います。また、ロシア科学アカデミーとの交流も企画中です。

会員各位をはじめ、バイカル湖に御関心皆様のご参加をお待ちしています。参加申し込み締め切りは、2013年3月31日(VISA取得のため)とします。また、調査団メンバーが確定しましたら、4月から事前学習会を行います。

【日 程】8月中旬以降の約1週間(参加者のご予定を聞きながら日程を確定します)

【費 用】約20万円(詳細は、参加者にご連絡します)(下記を参照)

<ご旅行代金>

2名部屋利用 1名様当りの料金	ヴィクトリアホテル バイカルホテルまた は同等クラス利用	シングル利用の 場合の追加料金
10名様以上ご参加 ツインご利用の場合	153,000円	17,500円
15名様以上ご参加 ツインご利用の場合	141,000円	17,500円

*この料金は2012年10月のものです。為替の変動や現地からの交通機関の料金の変更ににより変更される可能性があります。

◆旅行料金に含まれるもの

関西-ソウル-イルクーツク(往復)エコノミークラス航空券・空港/駅-ホテル間の送迎ならびに送迎時日本語ガイド、ホテル3泊、日程表に記載の食事(朝3・昼3・夜3)・観光時のバスならびに日本語ガイド、入場料・バイカル環状鉄道・バイカル湖クルーズ(1時間)の費用

◆別途必要な費用 21,140円

ロシアビザ 通常申請 0円(2週間前申請の場合です。それができない場合は4,000円の追加費用がかかります)

ビザ取得代行手数料 3,150円

空港税(成田・ロシア) 4,990円

燃油サーチャージ 13,000円

(こちらは2012年10月末現在の料金ならびに航空スケジュールとなりますので、為替の状況や航空会社の方針により変更となる可能性があります)

【申込み・問合せ先】仲上 健一(立命館大学 政策科学部) E-mail: nakagami@sps.ritsumei.ac.jp

2012年度 水資源・環境学会 夏季現地研究会 「川辺川ダム計画中止を見通した五木村の再生計画」報告

伊藤 達也(法政大学 文学部)

2012年度の夏季現地研究会を8月24日から26日にかけて実施した。参加者は12名。例年に比べて少ない印象はあるが、大変充実した見学会となった。以下で簡単に内容を紹介したい。

8月24日(金) 13:00鹿児島空港集合ー曾木の滝ー人吉城跡ー青井阿蘇神社ー五木村到着ー五木村村民と懇談会(五木交流センター「夢唄」にて)

8月24日13時、鹿児島空港に集合した一行は、五木村村会議員早田吉臣氏の出迎えを受け、さっそくバスに乗り込んで目的地に向かった。最初の目的地は曾木の滝。曾木の滝は鹿児島県伊佐市の川内川上流に位置する滝で、落差は12mだが、滝幅が210mと広く、「東洋のナイアガラ」と称されている(写真1)。周辺は曾木の滝公園として整備され、のどかな風景を醸し出している。曾木の滝は本州方面の風景に見慣れている人たちにとって大変雄大な光景であり、参加者一同、感動に浸った。



写真1 曾木の滝

バスは曾木の滝を後にし、人吉市に入り、人吉城跡に到着する(写真2)。「夏草や 兵どもが 夢の跡」が似合う場所だ。私が訪れたのは二度目だが、静けさの中に歴史を感じさせてくれるとてもよい場所だ。次に訪問した青井阿蘇神社は今から1200年前に創建された。境内はとても穏やか

な空間で、人々をほっとさせる。本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門、五棟一連の御社殿は江戸時代はじめに造営され、2008(平成20)年6月9日に九州では55年ぶり、熊本県では初となる国宝に指定された。

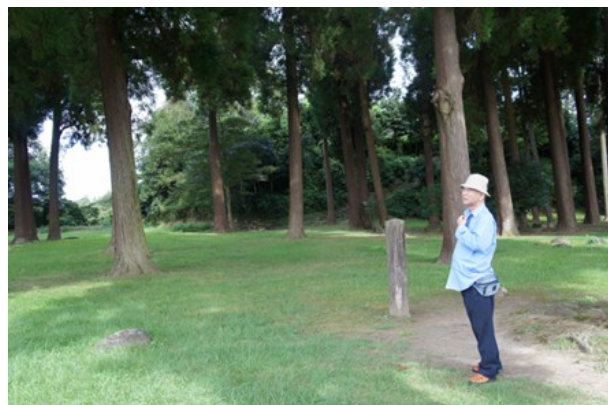


写真2 人吉城跡

その後、人吉駅で集合の人たちをバスに乗せ、五木村へ向かった。今回の参加者のほとんどは初めての五木村訪問である。相良村から五木村の村境近くの川辺川ダム建設予定地(写真3)を見ながら、バスは五木村へ。五木村中心部の頭地地区は川辺川ダム建設に伴う水没予定地にあたる。既に集落移転は完了しており、水没予定地の側面に新たな集落が形成されている(写真4)。今回は頭地地区にある民宿にお世話になった。



写真3 川辺川ダム建設予定地



写真4 五木村中心（水没予定地）

五木村は熊本県球磨郡に属する。現在の人口は1,200人程度で、「五木の子守唄」発祥の地として有名であるが、近年は川辺川ダム建設によって村の中心地が水没することや、さらには川辺川ダム建設中止に伴う地域の動揺によって話題になっている。今回の見学会の目的もその点を確認することにあつた。24日夜と25日夜の2回、宿泊した民宿と道路を挟んだところにある五木交流センター「夢唄」で温泉につかり、その後レストランで夕食を取りながら、早田さんにご尽力いただき、村人を呼んでいただき懇談をした。五木村の方々は大変実直な方が多く、私たちのような突然の訪問者にも本当の誠実に対応いただいた。感謝の気持ちで一杯である。

川辺川ダム問題は現在、ますます複雑化していると言えよう。蒲島熊本県知事のダム計画中止宣言、民主党の政権獲得後のダム中止表明などなど。しかしそれにも拘わらず川辺川ダム計画は未だ中止に至っていない。一方、先日、政権が自民党に移ったことでの影響も懸念される。見学会で話題になったのは、ダム建設中止に伴う補償問題、地域活性化問題であった。民主党から自民党に政権が代わり、どのような展開になるか、関心は高い。

8月25日（土） 五木村内見学－五木村村民と懇談会（五木交流センター「夢唄」にて）

25日は一日五木村及びその周辺地域のエクスカージョンを行った。五木村のほとんどは山間地域である。一日バスを使つての移動はなかなか大変であった。しかし、それ自体が五木村の現状を知る大変良い機会となった。五木村村内では白滝公園（写真5）、宮園の大銀杏、頭地資料室「やませみ」等をめぐり、五木村の地域資源の豊かさを学んだ。

実は五木村に関わるダム計画は川辺川ダム計画の他に五木ダム計画がある。五木ダムは五木村上荒地地区に計画された重力式コンクリートダムで、洪水調節を目的とする。堤高61.0m、堤頂長132.0m、総貯水容量350万 m^3 、有効貯水容量220万 m^3 で、事業主体は熊本県である。川辺川ダム計画休止に伴い、五木ダムも中止された。五木村では計画中止に伴って治水水準の下がる地域の治水対策を重点的に検討している。私たちは五木ダム建設予定地、水害予定地をめぐりながら、複数のダム計画に揺れる五木村の表情を見た気がした。

五木村の上流に八代市泉町がある。泉町は川辺川の最上流地域に当たり、古くから平家の落人伝説等により、神秘的な魅力を伝える地域である。落人伝説は実は平家だけでなく、菅原家の伝説も伝わっており、菅原道真の子孫・左座（ぞうぞ）家がこの地に入り、隠れ住んだと伝えられている（写真6）。



写真5 白滝公園



写真6 左座家

3年前、ダム計画の中止に揺れる五木村を訪ねて以来、五木村への訪問は今回で4回目となる。村は静かで、村人は穏やかである。しかし、その背後には川辺川ダム計画に揺れ続け、計画が休止された後も、なかなか中止に至らない問題、計画中

止を前提とした地域補償問題、地域活性化問題等、問題は山積している。しかし、それでもこの3年間で少しずつだが変化の兆しが見えるところもある。例えば、3年前、道の駅子守唄の里五木物産館「山の幸」の土産物にはなかなか五木村原産のものが見当たらなかった。何回か通う中で、村内産の土産物が増え、また目立つようになった。3年前から元気だった山うに豆腐にもライバルが出現したようだ。

「五木萬彩」シリーズ等はとてもセンスの良い土産に見える。個人的にはそうした地道な努力と経済振興が地域を支える一番の策に思われる。2日目の夜も村人を交えた懇談は盛り上がり、「山を買う」話ができただことは大収穫であった。

8月26日（日） 荒瀬ダム見学－球磨川下－15:00人吉駅解散－16:00鹿児島空港解散

最終日の26日は朝、五木村を離れ、バスはひたすら荒瀬ダムを目指した。

荒瀬ダムは熊本県八代市坂本町にある球磨川に建設されたダムで、私たちが訪れた翌月から撤去工事が予定されていた（写真7）。堤高25mの重力式コンクリートダムで、水力発電を目的に1955年に完成した。ダム本体撤去が決定したのは2010年で、撤去に向けた工法、環境対策等の検討が「荒瀬ダム対策検討委員会」で進められてきた。



写真7 荒瀬ダム

午後は球磨川下りを予定していたが、当日、風が強く、予定していた急流下りが中止となり、人吉市内から出発する清流下りへの変更となった（写真8）。穏やかな流れに浮かぶ舟は日頃の喧騒を忘れさせてくれる最高の時間を提供してくれた。

全ての予定を終了し、バスは鹿児島空港に向かった。私は途中、人吉駅で学生と一緒にバスを降り、もう一日、予定していた水俣へ向かったが、他の人々もそれぞれ自らの目的を叶えるために行動した



写真8 球磨川下り

ようだ。3日間を通じて早田吉臣氏には絶大なる協力をいただいた。感謝の念にたえない。



2012年度 水資源・環境学会 総会の概要

2012年度学会総会が2012年6月2日に開催されました。総会において第1号議案「2011年度事業報告」、第2号議案「2012年度事業計画」、第3号議案「2011年度決算報告」、第4号議案「2012年度予算案」、第5号議案「2012年度役員」がそれぞれ議決されました。

以下に各議案を掲載します。

第1号議案 「2011年度事業報告」

(1) 研究会事業

1-1 研究大会 (2011/6/4)

共通テーマ「統合流域管理」

基調講演「統合流域管理の捉え方とその課題」

藤田裕一郎 (岐阜大学流域圏科学研究センター)

テーマ論題報告

「流域統合管理と分割管理－利水面から見た場合」

伊藤達也 (法政大学)

「統合流域管理と上下水道」

太田正 (作新学院大学)

自由論題報告 7本

1-2 夏季現地研究会 (2011/8/21-24)

「麗しの島台湾現地研究会」参加者 15名

訪問先：国立成功大学、旧カネボウ工場跡地(水銀排水)、自然農園/鄭成功の史跡、烏山頭水庫、八

田與一記念公園、曾文水庫

1-3 冬季研究会 (2012/3/3)

「水道広域化の動向と課題」

基調報告 太田正

コメント 矢嶋巖 (神戸学院大学)・武藤仁 (長良

川市民学習会)

総合討論司会 野村克己 (京都市上下水道局)

(2) 学会誌事業

水資源・環境研究24巻の発行 (電子ジャーナルとして発行)

(3) 広報事業

3-1 ニュースレターの発行

56号 (2011/5/11)

57号 (2011/7/6)

58号 (2012/1/16)

3-2 ホームページの更新

(4) 表彰事業

奨励賞 1件 (研究大会において表彰)

佳璘 (東京大学大学院) 「ため池の保全における多義的枠組みについて」

第2号議案 「2012年度事業計画」

(1) 研究会事業

1-1 研究大会 (2012/6/2-3)

「再生可能エネルギーと水資源」

第1日目 研究大会

第2日目 エクスカーション

1-2 夏季現地研究会 (2012/8/24-26)

「川辺川ダム問題に揺れる五木村ダム計画の中止と村再生計画を考える」

1-3 冬季研究会 (2013/3月上旬予定)

(2) 学会誌事業

水資源・環境研究25巻1号、2号発行

(3) 広報事業

3-1 ニュースレター発行3回 (5月、7月、11月)

3-2 ホームページの更新

(4) 表彰事業

4-1 研究奨励賞の表彰

4-2 学会賞に関する規定策定

第3号議案 「2011年度決算報告」

(別紙 第3号議案)

第4号議案 「2012年度予算案」

(別紙 第4号議案)

第5号議案 「2012年度役員選出」

2012年度の理事、顧問、監事に以下の者が選出された。

(別紙 第5号議案)



別紙 第3号議案 2011年度決算報告

項目	細目	予算額	決算額	増減
収入の部	会費収入	815,000	789,790	△ 25,210
			658,910	
			130,880	
	学会誌収入	6,300	43,980	37,680
			2,100	
			41,880	
	研究会収入	0	4,500	4,500
			4,500	
	その他収入	0	57,514	57,514
	収入合計		821,300	895,784
支出の部	研究事業費	44,000	43,446	△ 554
		40,000	37,200	
		2,000	0	
		2,000	6,246	
	学会誌事業費	790,000	426,702	△ 363,298
		750,000	407,400	
		40,000	16,302	
		0	3,000	
	広報事業費	47,000	49,076	2,076
		0	0	
		20,000	27,446	
		5,000	0	
		22,000	21,630	
		0	0	
	事務局費	70,000	58,829	△ 11,171
		30,000	30,000	
		20,000	24,010	
	10,000	4,819		
	10,000	0		
借入金返済	80,000	80,000	0	
予備費	50,000	0	△ 50,000	
支出合計		1,081,000	658,053	△ 422,947
当期剰余金(収支差額)		△ 259,700	237,731	497,431
前期繰越資産		1,449,110	1,449,110	0
次期繰越資産		1,189,410	1,686,841	497,431

別紙 第4号議案 2012年度予算案

		2011年度		2012年度
	項目 細目	予算額	決算額	予算額
収入の部	会費収入	815,000	789,790	740,000
	当年度会費		658,910	
	過年度会費		130,880	
	学会誌収入	6,300	43,980	0
	販売収入		2,100	
	超過原稿料収入		41,880	
	研究会収入	0	4,500	0
	要旨集販売		4,500	
	その他収入	0	57,514	0
	繰越資産取崩			272,065
2011年度未執行分			179,665	
2012年度不足額充当分			92,400	
	収入合計	821,300	895,784	1,012,065
支出の部	研究事業費	44,000	43,446	80,000
	会場借上げ費	40,000	37,200	40,000
	通信交通費	2,000	0	30,000
	消耗品	2,000	6,246	10,000
	学会誌事業費	790,000	426,702	647,400
	編集印刷費	750,000	407,400	638,400
	学会誌郵送費	40,000	16,302	0
	査読謝礼	0	3,000	9,000
	広報事業費	47,000	49,076	55,000
	NL郵送費	20,000	27,446	20,000
	消耗品	5,000	0	15,000
	HP運営委託費	22,000	21,630	20,000
	事務局費	70,000	58,829	50,000
	理事会会場費	30,000	30,000	30,000
	通信費	20,000	24,010	10,000
	消耗品	10,000	4,819	10,000
	その他	10,000	0	0
借入金返済	80,000	80,000		
予備費	50,000	0		
	年度支出合計	1,081,000	658,053	832,400
	2011年度未払分支出			179,665
24巻編集委託費未払分				175,665
2011年度HP更新未払分				4,000
	支出合計	2,118,000	1,272,660	1,012,065
	当期剰余金(収支差額)	△ 259,700	237,731	0
	前期繰越資産	1,449,110	1,449,110	1,668,841
	次期繰越資産	1,189,410	1,686,841	1,396,776



別紙 第5号議案 2012年度役員選出

2012年度理事	
氏名	所属
秋山 道雄	滋賀県立大学
足立 考之	国土工営コンサルタンツ(株)
伊藤 達也	法政大学
遠藤 崇浩	大阪府立大学
大橋 浩	(株)地域社会研究所
小幡 範雄	立命館大学
高橋 卓也	滋賀県立大学
千頭 聡	日本福祉大学
土屋 正春	滋賀県立大学
仲上 健一	立命館大学
西田 一雄	(株)地域環境システム研究所
仁連 孝昭	滋賀県立大学
野村 克己	日本下水道事業団
花嶋 温子	大阪産業大学
平井 拓也	フジクリーン工業(株)
松 優男	内外エンジニアリング(株)
松岡 勝実	岩手大学
宮崎 淳	創価大学
矢嶋 巖	神戸学院大学
安本 典夫	名城大学
若井 郁次郎	大阪産業大学
渡邊 紹裕	総合地球環境学研究所
2012年度顧問	
氏名	所属
板橋 郁夫	創価大学名誉教授
荻野 芳彦	大阪府立大学名誉教授
國松 孝男	滋賀県立大学名誉教授
末石 富太郎	大阪大学名誉教授・滋賀県立大学名誉教授
菅原 正孝	大阪産業大学名誉教授
立川 涼	愛媛大学名誉教授・高知大学名誉教授
森滝 健一郎	岡山大学名誉教授
2012年度監事	
氏名	所属
三輪 信哉	大阪学院大学
花田 眞理子	大阪産業大学

学会事務局からのお知らせ

**** 原 稿 募 集 ****

学会誌「水資源・環境研究」は、皆様からの原稿を募集しています。掲載原稿は電子媒体での公開とし、研究成果の投稿機会を増やすため年2回の発行となっています。

また、「論文（論説）」、「研究ノート」以外にも地域の話題や時事問題をテーマとした「水環境フォーラム」、書評等も随時受付けています。

次号の締切りは、2013年2月28日です。

学会ホームページの投稿規程、執筆要領を参照のうえ、原稿送付状を添付して学会事務局まで電子メールにて送付ください。

（原稿サイズの変更のお知らせ）

現在、「水資源・環境研究」の刷り上り原稿はB5の判型で掲載してきましたが、次号よりA4版での公開となります。これによって1ページ当たりの文字数が増えるため、できあがりのページ数を下記のように変更します。詳しくはホームページの投稿規程をご確認ください。

論 文（論説）：10ページ → 8ページ（変更）

研究ノート・水環境フォーラム：6ページ → 5ページ（変更）

書 評：2ページ（変更なし）

水資源・環境学会
事務局長 仁連 孝昭

■ 連絡先に変更はございませんか？

転居などともなう住所の変更で、学会からの郵便物が返送されて来る場合、登録いただいているE-mailアドレスがエラーで届かない場合が多数ございます。

所属先、連絡先等、変更がございましたら下記学会事務局までご連絡下さい。